

未来の教育

高崎市立並榎中学校

三年 島田 理央

現代の学校教育において、先生と生徒が共に学び合うことが特に重要視されているように感じます。今までの教育では、先生が生徒に知識を一方的に伝えるような指導が一般的だったと思います。しかし、現代では知識をただ得る、情報の伝達なら動画配信やインターネットで事足りてしまいます。未来の教育では、知識の伝達だけでなく、先生と生徒が共に学び、成長できる教育を目指していく必要があると思います。

私がこのように思ったのは、OECDのEducation 2030プロジェクト無限大に参加してからです。これはウェルビーイングな学校を目指す国際共創プロジェクトでした。私たちのプロジェクトチームはスコットランドの学校と組み、国境や時差を超えて、対話を進めることになりました。はじめは、「未来の教育？ウェルビーイングな学校って何？」と疑問だらけでした。そこで、この疑問を解決する

ために、行動してみることにしました。

夏休みには石川県の能登で行われたワークショップに参加しました。そこには、未来の教育について考える様々な立場の人が集まりました。年齢が離れている大人や、よく耳にする偉い人が集まっただけで緊張しましたが、対話を通して未来の教育について考える仲間として、上下の立場は無いと学びました。これは私にとって大切な学びで、先生と生徒も同じように、共に学び成長する仲間として、将来共に働く仲間として、上下の関係ではなく対等な関係が必要なのだと実感しました。また、実際に能登半島の輪島高校を訪れました。地震や津波によって被害を受けた学校や輪島の町は悲惨な状態でした。そんな「普段通り」とは言えない状況の中でも、先生も生徒も動き続けていました。復興のための街づくりプロジェクトは街プロと呼ばれ、自分たちの手で町を復興するにはどうしたらいいのか、先生も生徒も一緒になって全力で考え、協力していました。そこには一方的な意見や指導は無く、双方向的なコミュニケーションが成り立っていて、理想とする関係性の一つを近くで感じる事ができました。

そして、群馬に帰ったあと、スコットランドとの共創の中で、先生と生徒がお互いのよいところを見合おうという

願いを込めて、先生のよいところを評価する、先生通知表を作りました。

十二月には活動の成果を発表する、フランス、パリでの、生徒教師国際サミットに参加しました。そこには世界十八カ国から、約五百人の仲間が集まりました。私たちはスコットランドの学校と日本の高校とのグループで、パリで直接会えた時の感動は今でも鮮明に覚えています。他の国の先生や生徒とも直接話すことができたり、本部の人の話を聞くことができたりして、自分の考えもより一層深くなりました。

このような経験から、未来の教育に必要なことについて、改めて考えました。はじめにもお話しした通り、共に学び、成長するというのは必要不可欠だと思います。これらを実現するために、先生も生徒もお互いを尊重し合う必要があります。このような話をすると先生が変わる必要があります、教育側に何か求められていると思われがちですが、変わるべきは私たち生徒でもあります。先生たちはどうしたら私たちがよりよい生活を送れるか、日々考え、動いてくれています。その中で、生徒の意見を尊重したい。生徒に授業や活動を委ねたいと思う場面があると思います。しかし、そこで私たち生徒に自律心がかけている場合、何か委ねる

ことに不安や抵抗がうまれてしまいます。したがって、私たち生徒は自律心を高めて、先生たちとの信頼関係を築く必要があります。

現状、この社会は変化の多い時代です。教育や学校も変化することで、変わりゆく社会に適応できる人を育成し、その人たちがやがて社会に出て、よりよい世界をつくりまします。だから、主体性や柔軟性、対話のある学校を目指すことが必要です。

変わりゆく社会にとって私たちは、大きな存在です。だからこそ、私たち自身が自分の意見をしっかりと持ち、よりよい判断ができる力を身につけていくことが大切です。そういう私たちの姿が周囲の大人に伝わった時に、年齢や立場の壁を超えて「よりよい答えを一緒に見つける仲間」として信頼関係が生まれるのです。変わりゆく未来には不安もあります。しかし、私には、不安よりも大きな希望と期待があります。なぜなら、私たちには未来をよい方向に変えていく無限の力を秘めているからです。子どもと大人が対等なパートナーとして、共によりよい社会をつくろうとすることが、未来を変える一歩になると思います。次の世代にどんな社会を残すかは、今を生きるあなた次第です。